

韓国に於ける瀬戸内寂聴

崔順愛

1. 韓国に於ける瀬戸内文学の翻訳状況

韓国に於ける瀬戸内寂聴について書く機会が私に来るとは思ひもしなかった。原稿依頼の手紙を受けてから瀬戸内寂聴文学について私に書けるようなネタは乏しく、記憶を探つてみたらば留学中に論文発表や研究に途方に暮れた時、彼女の隨筆を初めて読んだ覚えがある。何を読んだのかは忘れたが悩みを抱えている人が読みたくなる作家という印象がある。後は『源氏物語』の現代語訳全巻が出た時、講談社の編集者から全巻プレゼントされ2巻まで読んだ覚えがある。現代語訳が出てから『源氏物語』ブームが起き、僧服姿のテレビ出演が多かったのが印象深かった。それ以外に、私個人として忘れられないことが一つある。留学中、韓国に里帰りのために成田空港に行つたとき

トイレで僧服姿の寂聴さんとばったりと目が合つて私は嬉しくて思わず「こんにちは」と挨拶をしたことがある。二十数年も過ぎたあの時の些細なことを含めてこの紙面に韓国に於ける瀬戸内文学を書くことになった。偶然の過去と現在再び出会う感じである。このエッセイを書くことに当たつて先ず、今まで韓国で翻訳された瀬戸内の作品をネットで検索してみたら1987年から2007年の間に全六作品がある。二回翻訳された作品を入れて七作を年度順にまとめてみた。国立中央図書館所蔵の翻訳作品に限定する。

1. 『ブッダと女の物語』講談社

『붓다와 여인들·붓타와 닉요인드루』

ファン・デニヨン訳・ミリネ・1987

2. 『愛すること—出家する前のわたし』 河出文庫（河出書房新社）
 『흐트러진 아름다움을 사랑한다는 것은』・ホトロジン ア
 ルムダウムウル サランハンドヌンゴスン』
- ユ・インギヨン訳・民族と文学社・1992・絶版
3. 『ブッダと女の物語』 講談社
 『불타와 여인들의 이야기』 ブルタワ ヨインドルエ イ
 ヤギ』
4. 『孤独を生きる』 光文社
 ムン・ソンウォン訳・チョウングル・1994
- 『여자는 남자보다 외롭다』 ヨジャヌン ナムジャボダ
 ウエロプタ』
- イ・ギヨヒヨン訳・ダングレ・1994
5. 『私迦』 新潮社
 イ・ギルジン訳・ソル出版社・2003
- 『성가모니』 ソツカモニ』
6. 『生きることばあなたへ』 光文社
 キム・ウク訳・リス・2010
- ①『나의 마음을 위로하다』 ナエ マウムルイロハダ』
 ②新刊『행복은 언제나 당신 마음속에 있다』 ヘンボグン
 ウンゼナ ダンシン マウムソゲイッタ』
7. 濑戸内寂聴訳『源氏物語』 講談社
 『겐지이야기 1・10・ゲンジイヤギ』
 キム・ナンジュ訳・ハンギルシャ・2007
 キム・ウク訳・リス・2013

所のブログに引用され投稿されている。『源氏物語』翻訳出版についてはメディアによる当時の反響は想像を超える評価であった。しかし二年後「教授新聞」（2012・05・15）によると「1990年代以降「最も力を入れて作ったが低評価された本は何か」「期待と違つて一番反応が良かつた本があれば何か」と言う質問に、「低評価された本」として、残念ながら『源氏物語』を挙げた。「全集という膨大な量的側面と現実と掛け離れた古典という側面、そして日本的情緒と美意識に対する共感不足など」が敗因だらうと出版社側は診断している。翻訳とは別に映画『夏の終り』①（監督・熊切和嘉、脚本・宇治田隆史）が2013年第18回釜山国際映画祭で上映された。

2. 韓国に於ける瀬戸内寂聴の認知度

一言で言うと反戦、反原子力、平和のために活動する僧侶運動家として知られている。文学作品以外に紹介されたのは反戦、反原子力、平和と関連した記事が目立つ。2001年アメリカで起きた9・11テロ以降、大手新聞社「東亜日報」②（2001・10・29）は伝えている。「日本の有名作家でありながら尼でもある瀬戸内寂聴（79）が、米国のテロに対する報復戦争に反対する断食祈願をした。」「報復戦争の中止、テロや爆撃の犠牲者

の冥福を祈る断食祈願を26日から3日間京都にある庵で行った。」彼女は「恨みを報復として返せば相手が再び報復するので恨みの鎖を断ち切ることはできない」「戦争を始める側は常に『良い戦争』と言つているが、いかなる場合にも『良い戦争』はありえない」と強弁した、と。湾岸戦争の時も一週間、反戦断食をしたことも伝えている。ハンギョレ新聞③は「『サヨナラ原発』東京で熱した17万人」（2012・07・16）、「日本、後ろから軍靴の音が聞こえている」④（2015・06・01）と日本の僧侶作家瀬戸内の反戦の声を紹介している。京郷新聞社⑤は「日本がますます恐ろしい戦争に向かっていることを死ぬ前に訴えたい」（2015・06・19）と90代の日本人作家がデモに参加していることを伝えている。他に世界日報⑥は「女性が夢を諦めておばさんになる理由」（2017・03・08）に「瀬戸内寂聴僧侶は5日、朝日新聞を通じて女性だと献身しなければならないという考えを捨てるよう助言した。」と老僧のアドバイスを伝えている。聯合ニュース⑦は「つらいことも永遠に続くわけではありません。今一緒にいる人と仲良くすることが一番大切です」（2019・01・09）という新年の言葉まで伝えていた。2021年死去した時も各紙に哀悼の記事が載せられていた。

3・朴烈と金子文子と寂聴

今年はちょうど関東大震災が起きて100年になる。100年前震災の混乱の中、無政府主義を夢見て日本皇太子の暗殺計画の疑いで不逞鮮人と見なされた朴烈（パク・ヨル）は日本政府と市民自警団によって金子文子と拘束される。金子は死刑宣告から4ヵ月後の7月23日、23歳で獄中で死亡する。当時、日本帝国は金子の死を自殺と発表したが、死をめぐる疑惑は現在も続いている。故人の遺体はその後、パク・ヨルの兄が慶北ムンギョンに埋葬、2003年にパク・ヨル義士記念公園⑧が造成され、彼女はムンギョン市馬城面セムコルキル44番地記念館前に移葬。韓国政府は独立運動に及ぼした彼女の功労を認め、2018年建国勲章愛国章が授与される。韓国で彼女に対する関心を集めたのはアナリストのパク・ヨルと同志兼恋人である金子文子の一代記を描いた、イ・ジュンイク監督の伝記映画『朴烈』（2017・06・28）の公開である。瀬戸内が小説『余白の春』を書くために「朝鮮へ取材の旅をして」「文子が自分の墓は朴烈の家族の墓場にと願つたのを朴烈の家族が守ってくれた」ことを感激している。戦後韓国で「文子を顕彰する風潮が生まれ文子の存在をたたえる傾向になつてゐる」とことと大ヒットした映画を見た瀬戸内が「私の『余白の春』が、その流れに少しで

も役に立つていたとしたら嬉しい」と岩波現代文庫版あとがきに書き残している。この映画の公開によつて朴烈と文子のアナリストとしての活動や韓国と日本での苦労話が知られ、獄中手記『何が私をこのようにさせたのか』で波乱万丈の人生が翻訳され再評価される。また、朴烈・文子の出会いから死に至るまでの純愛と抵抗の闘いを込めたミュージカル「22年2ヶ月」が2023年8月18日～9月3日までヨヌ小劇場で公演されるなど話題の中心人物となつた。韓国では歴史的な人物として認められ映画やミュージカルの主人公となつた彼女の人生を蘇らせる表現芸術が活発である。瀬戸内による金子文子の伝記小説『余白の春』も再評価される契機になればと思う次第である。

註

- ① <https://namu.wiki/w/%EC%97%AC%EB%A6%84%EC%9D%98%20%EB%81%9D>
- ② <https://n.news.naver.com/mnews/article/e020/0000092847?sid=104>
- ③ <https://www.hani.co.kr/arti/international/japan/542800.html>
- ④ <https://www.hani.co.kr/arti/international/japan/696750.html>
- ⑤ <https://www.khan.co.kr/world/japan/article/201506191358341>
- ⑥ <https://www.sogye.com/newsView/20170308002640?OutUrl=daum>
- ⑦ <https://www.ytna.co.kr/view/AKR20190109109100009?input=1179m>
- ⑧ <http://www.parkyeol.com/>